

デプロイメント ガイド

ソフトウェアのインストール - 目次

ソフトウェア デプロイメントの概要

CommNet サーバー

- Windows

- Windows クラスタ - 仮想サーバー

CommNet エージェント

- Windows

- Windows クラスタ - 仮想サーバー

これ以後の操作

デプロイメントの概要

次の節では、デプロイメント プロセス全体の概要について説明します。詳細な手順および説明については、該当するリンクをクリックしてください。

コンポーネントをインストールする前に、この節で説明されていない付加的な情報については製品のリリース ノートを読んでください。

ソフトウェア コンポーネントは、必ず次の順序でデプロイメントしてください。

1. CommNet サーバー ソフトウェア

インストール手順は、必ず CommNet サーバーのインストールから始めます。CommNet サーバーは、システム内のすべてのコンポーネントを結び付ける役割を果たします。

- CommNet サーバーのインストール
- クラスタへの CommNet サーバーのインストール

2. CommNet エージェント ソフトウェア

次に、管理対象の CommCell に関連付けられている CommServe コンピュータにすべてのエージェントをインストールします。

- CommNet エージェントのインストール
- クラスタへの CommNet エージェントのインストール

QSM サーバー コンピュータの場合、CommNet エージェント ソフトウェアをインストールする必要はありません。ただし、QSMCell を CommNet ドメインに登録する必要があります。詳細については、「はじめに」を参照してください。

3. CommNet ブラウザ

オプションで、CommNet ブラウザを任意のコンピュータにインストールし、CommCell をリモート コンピュータからモニタおよび管理することもできます。

- CommNet ブラウザのインストール
- クラスタへの CommNet ブラウザのインストール

4. CommNet Explorer

オプションで、CommNet Explorer を CommNet サーバーにインストールすることもできます。CommNet Explorer をインストールすると、CommNet コンポーネント上の情報に対して、SQL データベースから直接クエリを実行できるようになります。

- CommNet Explorer のインストール
- クラスタへの CommNet Explorer のインストール

上記のインストール手順は、CommNet サーバー、CommNet エージェント、CommNet ブラウザ、および CommNet Explorer をインストールする最も一般的な手順です。複数のソフトウェア コンポーネントを選択してコンピュータにインストールする場合、インストール手順は異なります。この節で紹介されている手順は、ソフトウェアで推奨されているインストールおよび構成手順です。

CommNet サーバーによる Microsoft SQL Server インスタンスの使用

CommNet サーバー ソフトウェアは、CommServe ソフトウェアをインストール済みのコンピュータ、または完全に独立したコンピュータにインストールします。

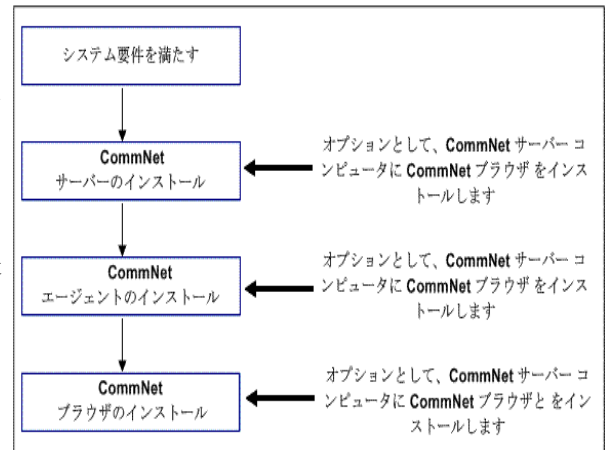
他のソフトウェアがインストールされていないコンピュータに CommNet サーバーをインストールする場合、Commvault インスタンスに CommNet サーバー データベース エンジンが作成されます。

CommServe コンピュータに CommNet サーバーをインストールする場合、CommCell が使用する Microsoft SQL Server インスタンス (Commvault インスタンス) が自動的に CommNet サーバー データベース エンジンに再使用されます。このインスタンス名は、ソ

ソフトウェアのバージョンをアップグレードした場合は異なる場合があります。

インストール時の複数コンポーネントの選択

インストール時に複数のコンポーネントを選択できます。ソフトウェアの共通パス、およびコンポーネント固有のパラメータを入力する必要があります。これにより、選択されたコンポーネントが正しい順序でインストールされます。たとえば、CommNet サーバーと CommNet ブラウザの両方を同じコンピュータにインストールする場合、インストールプログラムにより、必要なセットアップパラメータのプロンプトが 1 回のセッションですべて表示されます。これにより、ソフトウェアコンポーネントのデプロイメントをすばやく行うことができます。さらに、インストールを取り消した場合やインストールに失敗した場合は、インストールを最初からやり直すことができます。この場合、インストールを再開するか、インストールを最初からやり直すかを選択できます。



次のフローチャートは、ソフトウェアのデプロイメントプロセスを示しています。

クラスタへのソフトウェアのインストール

クラスタ環境の利点を活かすには、すべてのソフトウェアコンポーネントを正しくインストールする必要があります。次の節では、クラスタにソフトウェアをインストールするときの基本原則について説明します。ソフトウェアとクラスタの一般的な概要については、「[クラスタ化](#)」を参照してください。

物理、仮想、およびパッシブ インストール

ソフトウェアが正しく動作するには、クラスタ内の各ノードに必要なソフトウェアコンポーネントがインストールされており、Windows レジストリ情報が保持されている必要があります。ソフトウェアがクラスタに対応できるようにするには、インストール時にアクティブおよびパッシブの両方のノードに各コンポーネントをインストールします。

物理インストール

ソフトウェアのインストール時、デフォルトの設定では、ソフトウェアコンポーネントに対して物理インストールが実行されます。物理インストールでは、ソフトウェアはノードまたはマシンにインストールされ、クラスタとは無関係に動作します。この方法でインストールされたサービスでは、フェールオーバー保護などのクラスタ機能が使用できません。SQL iDataAgent を使用して仮想サーバーの CommNet サーバー データベースをバックアップする (推奨) には、クラスタ内の各物理ノードに Windows File System iDataAgent をインストールする必要があります。製品のインストール方法の詳細については、[Books Online](#) を参照してください。

仮想インストール

ソフトウェアコンポーネントは、仮想サーバーにインストールすることもできます。このインストール方法では、ソフトウェアは仮想サーバーおよび関連付けられたディスクグループにインストールされ、フェールオーバーなどのクラスタ機能を利用することができます。すべてのパッシブノードが使用可能である場合、選択した仮想サーバーにインストールすると、アクティブ (所有している) ノードおよびすべてのパッシブノードが更新されます。

パッシブインストール

自動インストール中に使用できないパッシブノードがある場合、パッシブインストールを実行します。パッシブインストールでは、アクティブノードに障害が発生した場合に、クラスタ内の別のノードがその処理を引き継ぐように設定できます。パッシブインストールを行う場合、各コンポーネントのアクティブインストール後に実行します。これにより、アクティブノードのレジストリ情報をパッシブノードに複製することができます。使用できないパッシブノードがある場合は、「[手動によるパッシブノードのインストールまたはアップグレード](#)」にある手順に従って、パッシブノードを手動でインストールします。

たとえば、クラスタに 5 つのノード (node1、node2、...) があると仮定します。自動インストールにより node1 をホストとする仮想サーバーに CommNet サーバーソフトウェアをインストールします。ソフトウェアにより、node1 のフェールオーバー先のノードのリストが自動的に取得されます。ここで、自動インストール中に node3 が使用できなかったとします。ソフトウェアは、アクティブノ

ード (node1) と使用可能なすべてのパッシブ ノード (node2、node4、および node5) に自動インストールされます。その後、node3 をフェールオーバー保護用に構成するには、node3 に別途ソフトウェアをインストールする必要があります。

[トップに戻る](#)

CommNet サーバーのインストール

ソフトウェアのインストールに関するそれぞれの節に移動するには、以下のリンクをクリックします。

- [インストール要件](#)
 - [インストール チェックリスト](#)
 - [開始する前に](#)
 - [インストール手順](#)
 - [はじめに](#)
 - [インストールするコンポーネントの選択](#)
 - [JRE のインストール](#)
 - [CommNet サーバーおよび CommNet サーバー データベースのインストール](#)
 - [CommNet サーバー名およびユーザーの設定](#)
 - [SNMP の設定](#)
 - [Web ベースの管理用に CommNet サーバーをセット アップ](#)
 - [インストール オプションのサマリの確認](#)
 - [セットアップ完了](#)
 - [インストール後の考慮事項](#)
-

インストール要件

- CommNet サーバーは、次のコンポーネントがインストールされているコンピュータ上にインストールしないことをお勧めします。
 - Microsoft Exchange Server、Oracle データベース、または以前のバージョンの Microsoft SQL Server。
 - CommNet サーバーは CommServe コンピュータ上にインストールできます。ただし、CommServe 用として 100 を超える CommCell クライアントが含まれるインストール構成の場合は、CommNet サーバーを CommServe がインストールされていないコンピュータにインストールすることをお勧めします。これによって、CommNet サーバーおよび CommServe の効率が向上します。
 - CommNet サーバーのデプロイメント時に、ソフトウェアのパフォーマンスを高めるために CommNet サーバー統計データベースが自動的に有効化されます。
 - 適切な [ソフトウェア インストール ディスク](#) を持っている必要があります。
 - ソフトウェアをインストールするコンピュータが、「[システム要件 - CommNet サーバー](#)」を満たしていることを確認します。
 - ライセンス ディスクを持っていることを確認します。
 - DNS ルックアップ、または名前を解決するための別の機能がネットワークにない場合は、CommNet サーバーの IP アドレスの入力が求められる場合があります。
-

インストール チェックリスト

ソフトウェアをインストールする前に、次の情報を収集します。情報を記録するために提供された領域を使用し、この情報を障害復旧バイндаで保持します。

1. インストール フォルダの場所: _____
詳細については、「[CommNet サーバーおよび CommNet サーバー データベースのインストール](#)」を参照してください。
 2. CommNet サーバー表示名および CommNet サーバー インターフェイス
-

名: _____

詳細については、「[CommNet サーバー名およびユーザーの設定](#)」参照してください。

3. Web URL: _____

詳細については、「[Web ベースの管理用に CommNet サーバーをセット アップ](#)」参照してください。

開始する前に

- すべてのアプリケーションを閉じ、ウイルス対策、スクリーン セーバー、システム ユーティリティなどの自動的に実行されるすべてのプログラムを無効にします。さまざまなウイルス対策ソフトウェアなどの一部のプログラムは、サービスとして実行される場合があります。開始する前にこのようなサービスを停止および無効にします。インストール後にこれらのサービスを再び有効化することができます。
- CommNet サーバーのインストール中に、Commvault という SQL Server インスタンスが自動的に作成されます。

インストール手順

はじめに

1. ローカル管理者、またはコンピュータのローカル Administrators グループのメンバとしてコンピュータにログオンします。クラスタ化されたコンピュータの場合は、そのクラスタ内のすべてのノードに対する管理権限を持つドメイン ユーザーとしてログオンします。

2. 適切なソフトウェア インストール ディスクをドライブに挿入します。数秒後に、インストール メニューが表示されます。

インストール メニューが表示されない場合:

- Windows タスク バーの [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- インストール ディスク ドライブにブラウズし、setup.exe を選択し、[開く] をクリックして、[OK] をクリックします。

3. 目的の言語を選択し、[次] をクリックして続行します。

4. ソフトウェアをインストールするオプションを選択します。

5. ソフトウェアをコンピュータにインストールするオプションを選択します。

ノート

- 画面に表示されるオプションは、ソフトウェアがインストールされるコンピュータによって異なります。

6. 他のアプリケーションが実行されていない場合は、ようこそ画面で [次] をクリックして続行します。

7. ウィルス検知ソフトウェアの警告を読みます。

ウィルス検知が無効になっている場合は、[OK] をクリックして続行します。

8.

ライセンス契約を読んで同意します。

[ライセンス契約の条項に同意する] を選択して、[次] をクリックして "続行" します。

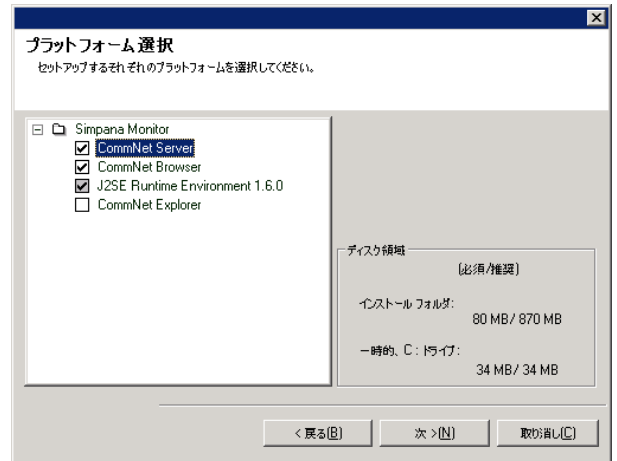
インストールするコンポーネントの選択

9. インストールするプラットフォームを選択します。

[次] をクリックして続行します。

ノート

- スケジュールされたレポートを使用する場合は、CommNet ブラウザが CommNet サーバーにインストールされている必要があります。

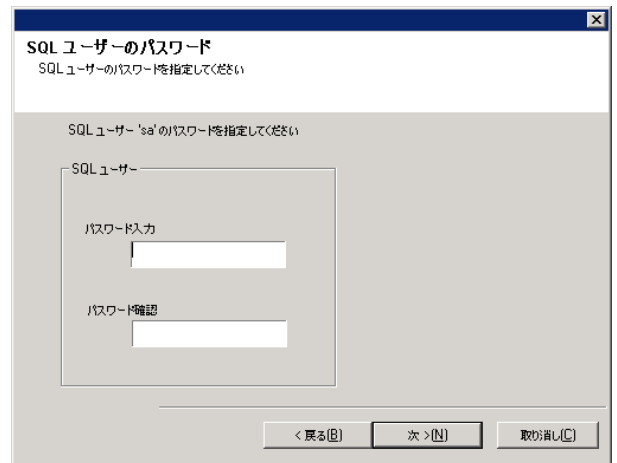


10. SQL ユーザー sa のパスワードを指定します。

[パスワード入力] - SQL ユーザー sa のパスワードを入力します。

[Windows 認証の使用] - SQL システム管理者権限を持つ Windows 管理者アカウントを使用して、sa アカウントに代わって SQL データベースにアクセスする場合はこのチェックボックスをオンにします。このオプションはデフォルトでオフになっています。

[次] をクリックして続行します。



11. [はい] をクリックして、CommServe 専用の Microsoft SQL Server インスタンスをセットアップします。

ノート

- このプロンプトが表示されるのは、このコンピュータに Commvault という SQL Server インスタンスがインストールされていない場合のみです。
- [いいえ] をクリックすると、インストールプログラムが終了します。

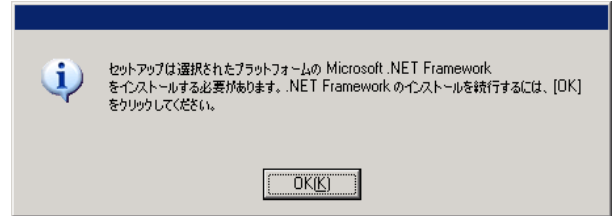


12. [OK] をクリックして、Microsoft .NET Framework をインストールします。

ノート

- このオプションは、コンピュータに Microsoft .NET Framework

がインストールされていない場合にのみ表示されます。



13. MSSQL Server のインストールパスを入力します。

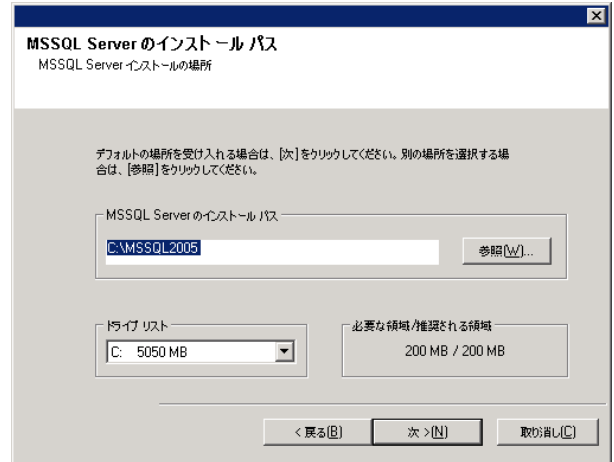
ノート

- これは、Microsoft SQL Server をインストールする場所です。

[ブラウズ] をクリックして、ディレクトリを変更します。

[次] をクリックして続行します。

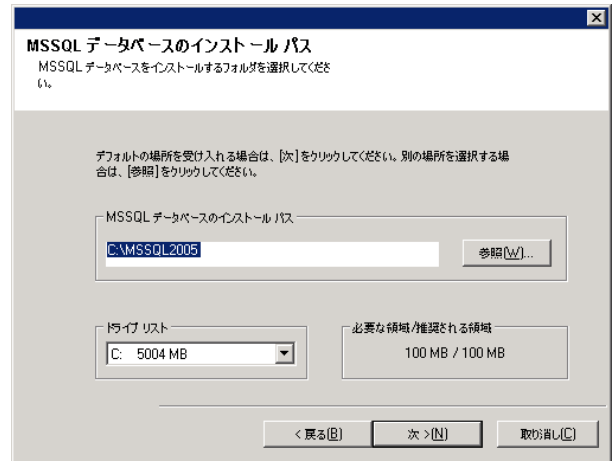
このステップは完了まで数分かかる場合があります。



14. Microsoft SQL Server システム データベースをセットアップするパスを指定します。

[MSSQL データベースのインストールパス] - Microsoft SQL Server システム データベースをセットアップする場所。

[次] をクリックして続行します。

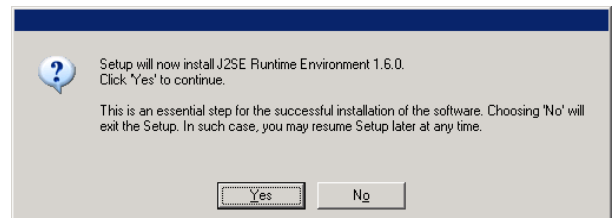


JRE のインストール

15. Java ランタイム環境 (JRE) をインストールする場合は [はい] をクリックし、コンピュータに既にインストールされている JRE バージョンを使用する場合は [いいえ] をクリックします。

ノート

- このプロンプトが表示されるのは、コンピュータで JRE バージョン 1.5.x を使用できる場合のみです。



CommNet サーバーおよび CommNet サーバー データベースのインストール

16. ソフトウェアのインストール先のパスを選択します。

目的の宛先パスを入力または "ブラウズ" し、[次] をクリックして

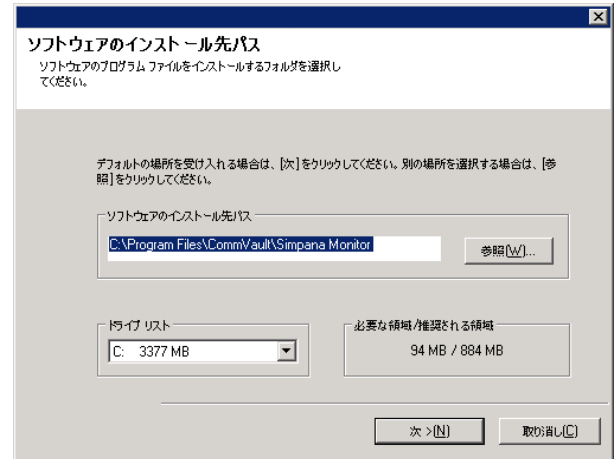
続行します。

ノート

- 次の文字を使用してマップされたネットワーク ドライブまたはパスにソフトウェアをインストールしないでください。

/ : * ? " < > | ! ; @ ^]

- 英数字のみを使用することをお勧めします。

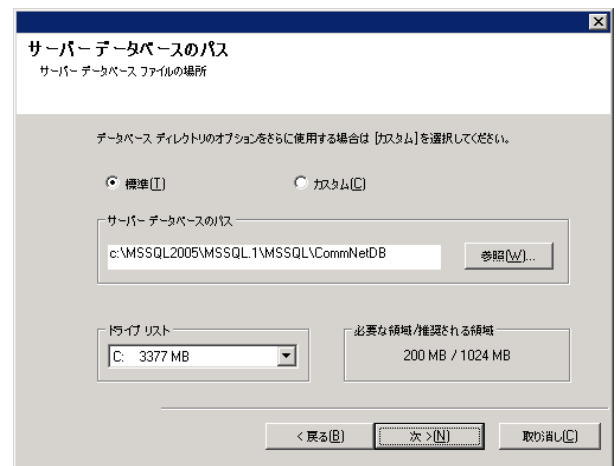


- 17.** CommNet サーバー データベースをインストールするパスを選択してください。

目的の宛先パスを入力または "ブラウズ" し、[次] をクリックして続行します。

ノート

- [標準] インストールを選択することをお勧めします。[カスタム] インストールを選択した場合、次のステップでカスタム データベース パスを指定するよう求められます。



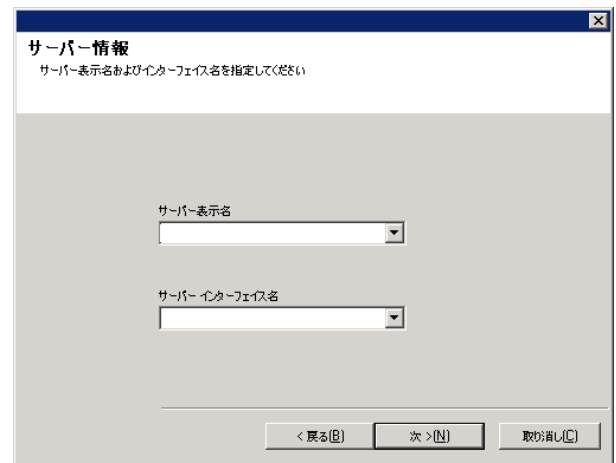
CommNet サーバー名およびユーザーの設定

- 18.** CommNet サーバーの表示名およびインターフェイス名を指定します。

[CommNet サーバー表示名] - CommNet サーバー コンピュータの名称です。

[CommNet サーバー インターフェイス名] - CommNet サーバー コンピュータの TCP/IP ネットワーク インターフェイス名です。

情報を選択または入力し、[次] をクリックして続行します。



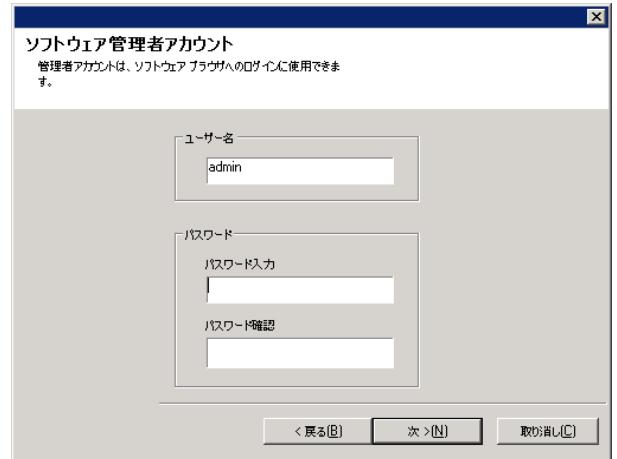
- 19.** ユーザーおよびパスワードを指定します。

[ユーザー名の入力] - システムの管理者名です。

[パスワードの入力] - 管理者アカウントのパスワードです。

[確認用パスワード] - 確認のためにパスワードを再入力します。

[次] をクリックして続行します。



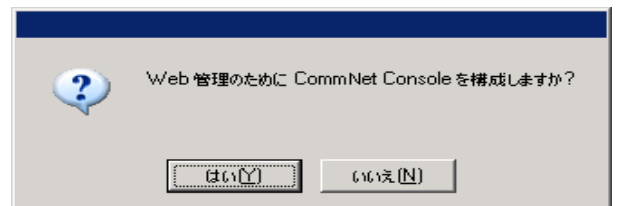
Web ベースの管理用に CommNet サーバーをセット アップ

20. このコンピュータに Internet Information Server (IIS) がインストールされている場合は、インストール プログラムはソフトウェアを Web ベースの管理用に構成するかどうかを確認します。

続行するには、[はい] をクリックしてください。

ノート

- IIS がインストールされていない場合、このプロンプトは表示されません。
- 右に表示される画面は、インストールまたはアップグレードするために選択されたソフトウェアによって異なる場合があります。

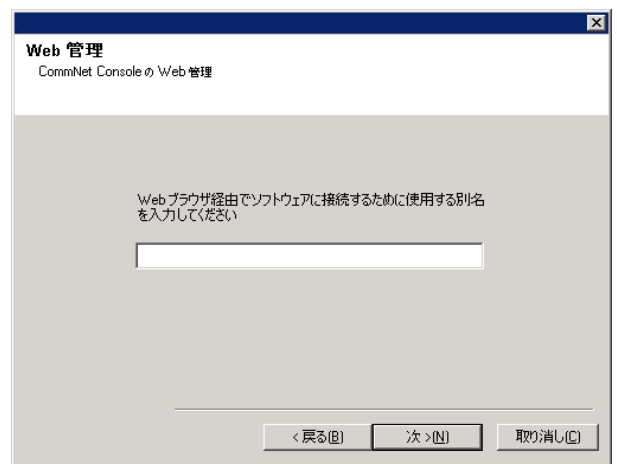


21. 別名を要求された場合は、CommNet ブラウザへのリモート アクセスに使用する Web 別名の名前を入力します (またはデフォルトの名前をそのまま適用します)。

[次] をクリックして続行します。

ノート

- IIS がインストールされていない場合、このプロンプトは表示されません。



インストール オプションのサマリの確認

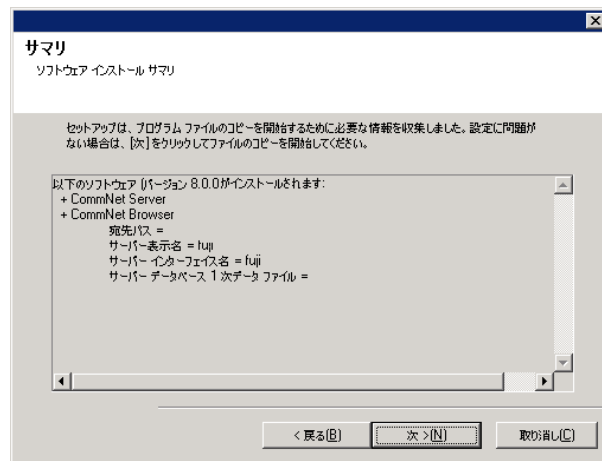
22. 選択されたコンポーネントのサマリを確認します。

[次] をクリックして続行します。

ノート

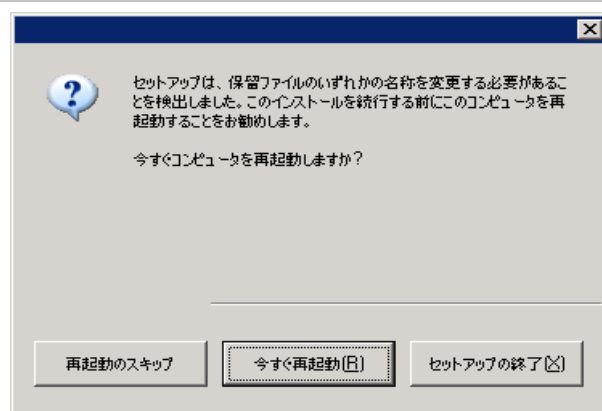
- 右に表示されるサマリは、インストールまたはアップグレードす

るために選択されたコンポーネントによって異なる場合があります。



23. システムの再起動で、次のいずれかのアクションを選択するよう求められる場合があります。

- **【ログオフ】** - このオプションは、インストール プログラムでユーザーに必要なセキュリティを割り当てる必要がある場合に表示されます。このログオフ オプションが表示された場合は、この時点でログオフしてからコンピュータにログインします。ログイン後にインストール プログラムが自動的に続行されます。
- **【再起動】** - このオプションは、使用する必要があり、置換が必要なファイルをインストール プログラムが検出すると表示されます。[再起動のスキップ] オプションなしで [再起動] オプションが表示された場合は、この時点でコンピュータを再起動します。再起動後にインストール プログラムが自動的に続行されます。
- **【再起動のスキップ】** - このオプションは、他のアプリケーションに属しており、置換が必要なファイルをインストール プログラムが検出すると表示されます。これらのファイルは CommNet サーバーのインストールには重要でないため、再起動をスキップしてインストールを続行したり、コンピュータを後に再起動したりできます。
- これで、インストール プログラムによって、コンピュータへのソフトウェアのコピーが開始されます。このステップは完了まで数分かかる場合があります。

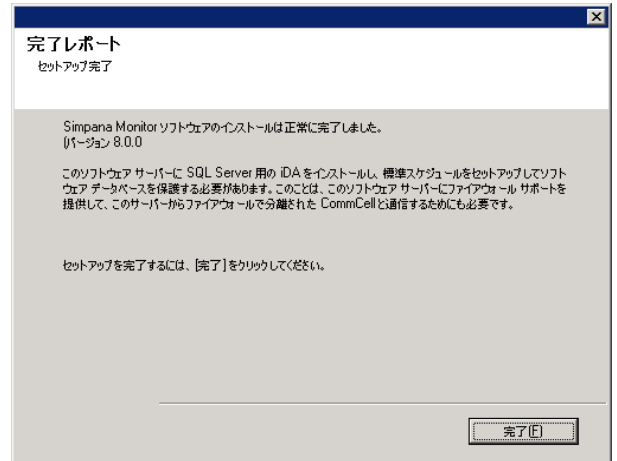


セットアップ完了

24. セットアップ プログラムによって、正常にインストールまたはアップグレードされたソフトウェア コンポーネントが表示されます。[完了] をクリックして、インストール プログラムを閉じます。

ノート

- 右に表示される画面は、インストールまたはアップグレードするために選択されたコンポーネントによって異なる場合があります。



インストール後の考慮事項

- このソフトウェアのリリース後に発表された、リリース後更新やサービスパックをインストールします。
- Microsoft SQL Server *iDataAgent* ソフトウェアが、インストール後に CommNet サーバーにインストールされている必要があります。*iDataAgent* は、あらゆる CommCell のクライアントとすることができます。これにより、CommNet サーバー上の CommNet サーバー データベースを含む SQL の *Commvault* インスタンスのバックアップメカニズムが提供されます。SQL *iDataAgent* のインストール時に、CommCells と CommNet サーバー間のファイアウォール サービスを構成することもできます。

ソフトウェアをインストールする場合、CommNet サーバーと SQL *iDataAgent* のインターフェイス名が同じである必要があります。たとえば、CommNet サーバーで *server.company.com* が使用されている場合、SQL *iDataAgent* についても *server.company.com* が使用されている必要があります。

iDataAgent をインストールする方法およびファイアウォールを越えてコンピュータを操作できるように構成する方法については、Books Online を参照してください。

- コンピュータエラーやアプリケーションエラーなどの障害から CommNet サーバー データベースを保護するには、障害復旧計画を用意しておくことをお勧めします。詳細については、「[障害復旧](#)」を参照してください。

CommNet サーバーのインストール - クラスタ環境 - 仮想サーバー

ソフトウェアのインストールに関するそれぞれの節に移動するには、以下のリンクをクリックします。

- [インストール要件](#)
 - [インストール チェックリスト](#)
 - [開始する前に](#)
 - [インストール手順](#)
 - [はじめに](#)
 - [インストールするコンポーネントの選択](#)
 - [CommNet サーバーおよび CommNet サーバー データベースのインストール](#)
 - [CommNet サーバー名およびユーザーの設定](#)
 - [インストール オプションのサマリの確認](#)
 - [セットアップ完了](#)
 - [インストール後の考慮事項](#)
-

インストール要件

- クラスタに CommNet サーバーをインストールする前に、仮想サーバーに Microsoft SQL Server と適切なサービス パックをインストールする必要があります。詳細については、「[システム要件 - CommNet サーバー](#)」を参照してください。
 - Microsoft SQL Database をインストールする前のステップ バイ ステップの指示については、「[CommNet サーバー用の SQL データベースの事前インストール - クラスタ環境 - 仮想サーバー](#)」を参照してください。
 - クラスタ上のソフトウェアのインストールまたはアップグレードは、物理ノードではサポートされていません。
 - CommNet サーバーは、次のコンポーネントがインストールされているコンピュータ上にインストールしないことをお勧めします。
 - Microsoft Exchange Server、Oracle データベース、または以前のバージョンの Microsoft SQL Server。
 - CommNet サーバーは CommServe コンピュータ上にインストールできます。ただし、CommServe 用として 100 を超える CommCell クライアントが含まれるインストール構成の場合は、CommNet サーバーを CommServe がインストールされていないコンピュータにインストールすることをお勧めします。これによって、CommNet サーバーおよび CommServe の効率が向上します。
 - SQL Server はクラスタ クォーラム ディスクにはインストールできません。
 - CommNet サーバーのデプロイメント時に、ソフトウェアのパフォーマンスを高めるために CommNet サーバー統計データベースが自動的に有効化されます。
 - 適切なソフトウェア インストール ディスクを持っていることを確認します。
 - ソフトウェアをインストールするコンピュータが、「[システム要件 - CommNet サーバー](#)」を満たしていることを確認します。
 - ライセンス ディスクを持っていることを確認します。
 - ディスク アレイなどのハードウェア デバイスが構成され、すべてのドライブに接続されていることを確認します。
-

インストール チェックリスト

ソフトウェアをインストールする前に、次の情報を収集します。情報を記録するために提供された領域を使用し、この情報を障害復旧バインダで保持します。

1. CommNet サーバー表示名および CommNet サーバー インターフェイス名: _____

詳細については、「[CommNet サーバー名およびユーザーの設定](#)」参照してください。

開始する前に

- すべてのアプリケーションを閉じ、ウイルス対策、スクリーンセーバー、システムユーティリティなどの自動的に実行されるすべてのプログラムを無効にします。さまざまなウイルス対策ソフトウェアなどの一部のプログラムは、サービスとして実行される場合があります。開始する前にこのようなサービスを停止および無効にします。インストール後にこれらのサービスを再び有効化することができます。
-

インストール手順

はじめに

1. ローカル管理者、またはコンピュータのローカル Administrators グループのメンバーとしてコンピュータにログオンします。クラスタ化されたコンピュータの場合は、そのクラスタ内のすべてのノードに対する管理権限を持つドメインユーザーとしてログオンします。
-

2. 適切なソフトウェアインストールディスクをドライブに挿入します。数秒後に、インストールメニューが表示されます。

インストールメニューが表示されない場合:

- Windows タスクバーの [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
 - インストールディスクドライブにブラウズし、setup.exe を選択し、[開く] をクリックして、[OK] をクリックします。
-

3. 目的の言語を選択し、[次] をクリックして続行します。
-

4. ソフトウェアをインストールするオプションを選択します。
-

5. ソフトウェアをコンピュータにインストールするオプションを選択します。

ノート

- 画面に表示されるオプションは、ソフトウェアがインストールされるコンピュータによって異なります。
-

6. 他のアプリケーションが実行されていない場合は、ようこそ画面で [次] をクリックして続行します。
-

7. ウィルス検知ソフトウェアの警告を読みます。

ウィルス検知が無効になっている場合は、[OK] をクリックして続行します。

8. ライセンス契約を読んで同意します。

[ライセンス契約の条項に同意する] を選択して、[次] をクリックして "続行" します。

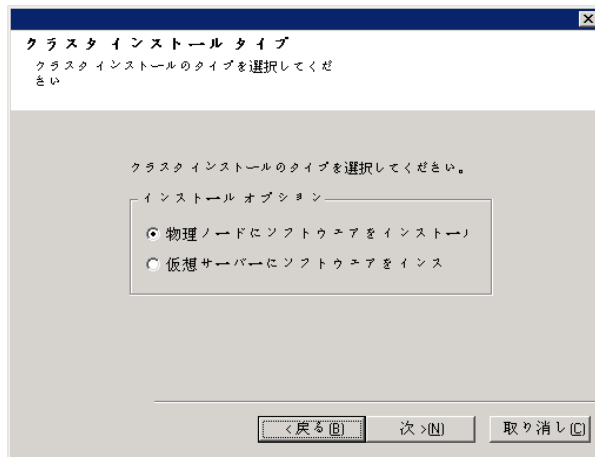
インストールするコンポーネントの選択

9. 仮想サーバーのインストールを選択します。

クラスタ上でソフトウェアをインストールまたはアップグレードするには、[仮想サーバー上での Simpana® Monitor のインストール] を選択し、[次] をクリックして続行します。

ノート

- クラスタ上のソフトウェアのインストールまたはアップグレードは、物理ノードではサポートされていません。



10. ソフトウェアをインストールするディスクグループを選択します。

[次] をクリックして続行します。



11. インストールするプラットフォームを選択します。

[次] をクリックして続行します。

ノート

- スケジュールされたレポートを使用する場合は、CommNet ブラウザが CommNet サーバーにインストールされている必要があります。



CommNet サーバーおよび CommNet サーバー データベースのインストール

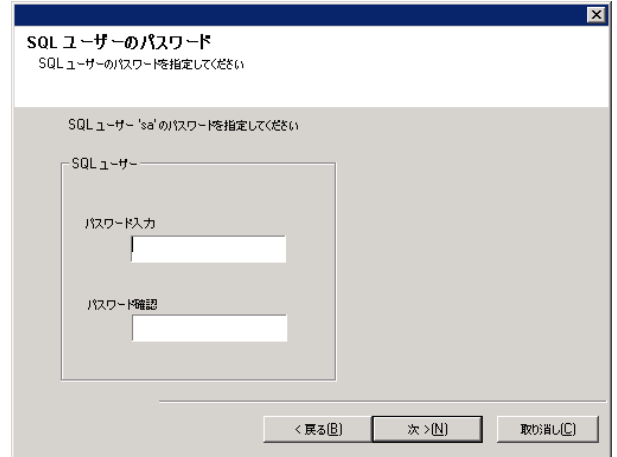
12. SQL ユーザー sa のパスワードを指定します。

[パスワード入力] - SQL ユーザー sa のパスワードを入力します。

[Windows 認証の使用] - SQL システム管理者権限を持つ Windows 管理者アカウントを使用して、sa アカウントに代わって

SQL データベースにアクセスする場合はこのチェックボックスをオンにします。このオプションはデフォルトでオフになっています。

[次] をクリックして続行します。



13. ソフトウェアのインストール先のパスを選択します。

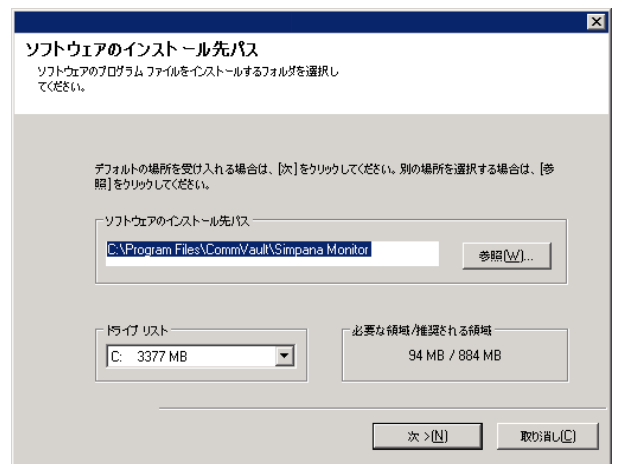
目的の宛先パスを入力または "ブラウズ" し、[次] をクリックして続行します。

ノート

- 次の文字を使用してマップされたネットワーク ドライブまたはパスにソフトウェアをインストールしないでください。

/ : * ? " < > | ! ; @ ^]

- 英数字のみを使用することをお勧めします。

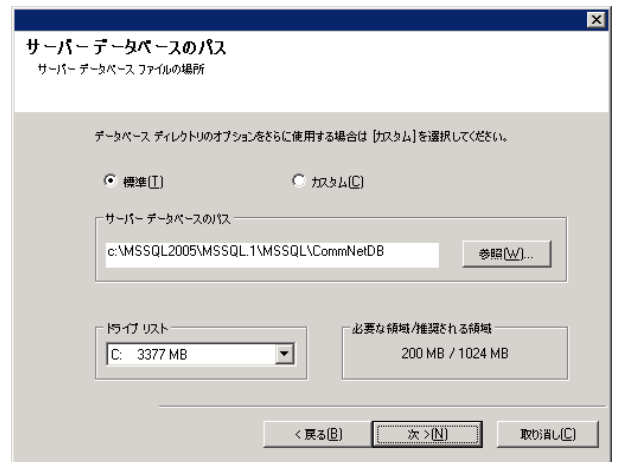


14. CommNet サーバー データベースをインストールするパスを選択してください。

目的の宛先パスを入力または "ブラウズ" し、[次] をクリックして続行します。

ノート

- [標準] インストールを選択することをお勧めします。[カスタム] インストールを選択した場合、次のステップでカスタム データベース パスを指定するよう求められます。



CommNet サーバー名およびユーザーの設定

15. CommNet サーバーの表示名およびインターフェイス名を指定します。

[CommNet サーバー表示名] - CommNet サーバー コンピュータの名称です。

[CommNet サーバー インターフェイス名] - CommNet サーバー コンピュータの TCP/IP ネットワーク インターフェイス名です。

情報を選択または入力し、[次] をクリックして続行します。

16. ユーザーおよびパスワードを指定します。

[ユーザー名の入力] - システムの管理者名です。

[パスワードの入力] - 管理者アカウントのパスワードです。

[確認用パスワード] - 確認のためにパスワードを再入力します。

[次] をクリックして続行します。

インストール オプションのサマリの確認

17. 選択されたコンポーネントのサマリを確認します。

[次] をクリックして続行します。

ノート

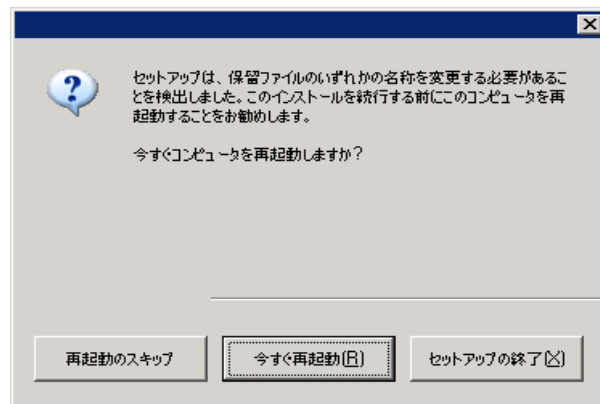
- 右に表示されるサマリは、インストールまたはアップグレードするために選択されたコンポーネントによって異なる場合があります。

18. システムの再起動で、次のいずれかのアクションを選択するよう求められる場合があります。

- **[ログオフ]** - このオプションは、インストール プログラムでユーザーに必要なセキュリティを割り当てる必要がある場合に表示されます。このログオフ オプションが表示された場合は、この

時点でログオフしてからコンピュータにログインします。ログイン後にインストールプログラムが自動的に続行されます。

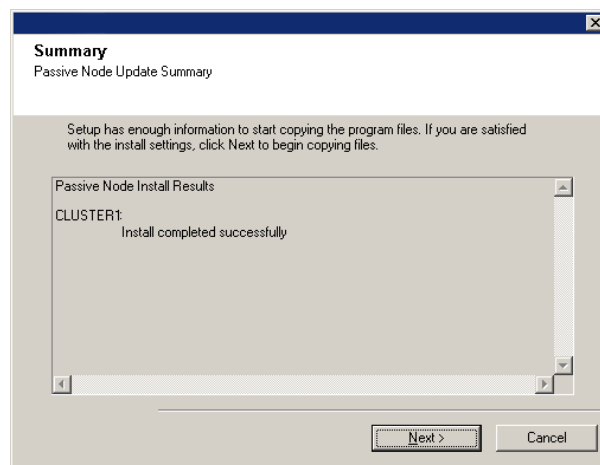
- **【再起動】** - このオプションは、使用する必要があり、置換が必要なファイルをインストールプログラムが検出すると表示されます。[再起動のスキップ] オプションなしで [再起動] オプションが表示された場合は、この時点でコンピュータを再起動します。再起動後にインストールプログラムが自動的に続行されます。
- **【再起動のスキップ】** - このオプションは、他のアプリケーションに属しており、置換が必要なファイルをインストールプログラムが検出すると表示されます。これらのファイルは CommNet サーバーのインストールには重要でないため、再起動をスキップしてインストールを続行したり、コンピュータを後に再起動したりできます。
- これで、インストールプログラムによって、コンピュータへのソフトウェアのコピーが開始されます。このステップは完了まで数分かかる場合があります。



セッアップ完了

19. パッシブ ノードが正常にインストールまたはアップグレードされたことを確認してください。インストール/アップグレード時にいずれのノードも使用できなかった場合は、「[手動によるパッシブ ノードのインストールまたはアップグレード](#)」を参照してください。

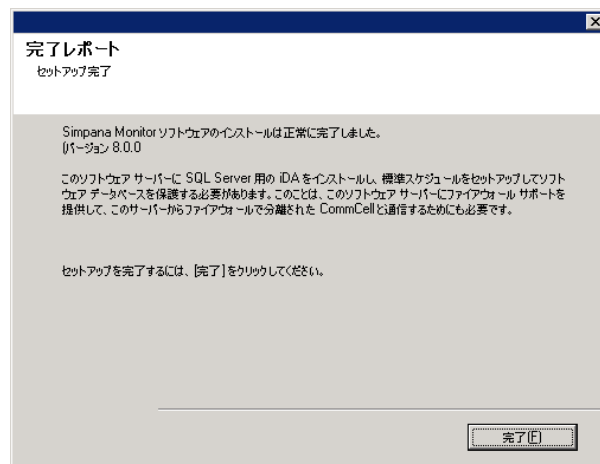
[次] をクリックして続行します。



20. セッアッププログラムによって、正常にインストールまたはアップグレードされたソフトウェア コンポーネントが表示されます。[完了] をクリックして、インストールプログラムを閉じます。

ノート

- 右に表示される画面は、インストールまたはアップグレードするために選択されたコンポーネントによって異なる場合があります。



インストール後の考慮事項

- このソフトウェアのリリース後に発表された、リリース後更新やサービス パックをインストールします。
- Microsoft SQL Server iDataAgent ソフトウェアが、インストール後に CommNet サーバーにインストールされている必要があります。iDataAgent は、あらゆる CommCell のクライアントとすることができます。これにより、CommNet サーバー上の CommNet サーバー データベースを含む SQL の *Commvault* インスタンスのバックアップ メカニズムが提供されます。SQL iDataAgent のインストール時に、CommCells と CommNet サーバー間のファイアウォール サービスを構成することもできます。

ソフトウェアをインストールする場合、CommNet サーバーと SQL iDataAgent のインターフェイス名が同じである必要があります。たとえば、CommNet サーバーで *server.company.com* が使用されている場合、SQL iDataAgent についても *server.company.com* が使用されている必要があります。

iDataAgent をインストールする方法およびファイアウォールを越えてコンピュータを操作できるように構成する方法については、Books Online を参照してください。

- コンピュータ エラーやアプリケーション エラーなどの障害から CommNet サーバー データベースを保護するには、障害復旧計画を用意しておくことをお勧めします。詳細については、「[障害復旧](#)」を参照してください。
-

CommNet エージェントのインストール

ソフトウェアのインストールに関するそれぞれの節に移動するには、以下のリンクをクリックします。

- [インストール要件](#)
 - [開始する前に](#)
 - [インストール手順](#)
 - [はじめに](#)
 - [インストールするコンポーネントの選択](#)
 - [インストール オプションのサマリの確認](#)
 - [セットアップ完了](#)
 - [インストール後の考慮事項](#)
-

インストール要件

- CommNet エージェントをアップグレードする前に CommServe をアップグレードします。
 - ソフトウェアがインストールされている間は、いずれのジョブも実行またはスケジュールされていないことを確認してください。ジョブがスケジュールされている場合は、別の機会にソフトウェアをインストールするか、または CommCell Console の [CommServe プロパティ] ダイアログ ボックスの [アクティビティ制御] タブを使用して CommCell のすべてのジョブを無効にします。
 - 適切なソフトウェア インストール ディスクを持っている必要があります。
 - コンピュータが、システム要件 - CommNet エージェントで指定されている CommNet エージェントの最小要件を満たしていることを確認します。
 - ディスク アレイなどのハードウェア デバイスが構成され、すべてのドライブに接続されていることを確認します。
-

開始する前に

- すべてのアプリケーションを閉じ、ウイルス対策、スクリーン セーバー、システム ユーティリティなどの自動的に実行されるすべてのプログラムを無効にします。ウイルス対策ソフトウェアなどの一部のプログラムは、サービスとして実行される場合があります。開始する前にこのようなサービスを停止および無効にします。インストール後にこれらのサービスを再び有効化することができます。
-

インストール手順

はじめに

1. ローカル管理者、またはコンピュータのローカル Administrators グループのメンバとしてコンピュータにログオンします。クラスタ化されたコンピュータの場合は、そのクラスタ内のすべてのノードに対する管理権限を持つドメイン ユーザーとしてログオンします。
2. 適切なソフトウェア インストール ディスクをドライブに挿入します。数秒後に、インストール メニューが表示されます。
インストール メニューが表示されない場合:
 - Windows タスク バーの [スタート] ボタンをクリックし、[ファ

イル名を指定して実行] をクリックします。

- インストール ディスク ドライブにブラウズし、setup.exe を選択し、[開く] をクリックして、[OK] をクリックします。

3. 目的の言語を選択し、[次] をクリックして続行します。

4. ソフトウェアをインストールするオプションを選択します。

5. ソフトウェアをコンピュータにインストールするオプションを選択します。

ノート

- 画面に表示されるオプションは、ソフトウェアがインストールされるコンピュータによって異なります。

6. 他のアプリケーションが実行されていない場合は、ようこそ画面で [次] をクリックして続行します。

7. ウィルス検知ソフトウェアの警告を読みます。

ウィルス検知が無効になっている場合は、[OK] をクリックして続行します。

8. ライセンス契約を読んで同意します。

[ライセンス契約の条項に同意する] を選択して、[次] をクリックして "続行" します。

9. 外部ドメイン ユーザー アカウントまたは CommCell ユーザー アカウントの [ユーザー名] および [パスワード] 情報を入力します。これにより、CommCell へのエージェントのインストールが認証されます。

[次] をクリックして続行します。

インストールするコンポーネントの選択

10. インストールするプラットフォームを選択します。

[次] をクリックして続行します。

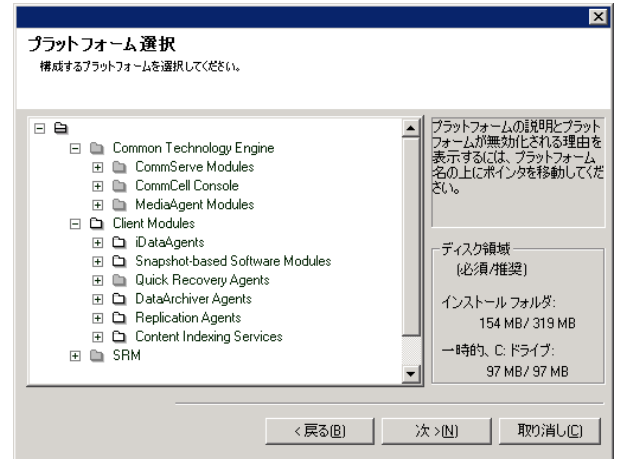
ノート

- スケジュールされたレポートを使用する場合は、CommNet ブラウザが CommNet サーバーにインストールされている必要があります。

CommNet エージェントをインストールするには、Common

Technology Engine フォルダと CommServe Modules フォルダを展開し、以下を選択します。

- CommNet Agent for CommCell



インストール オプションのサマリの確認

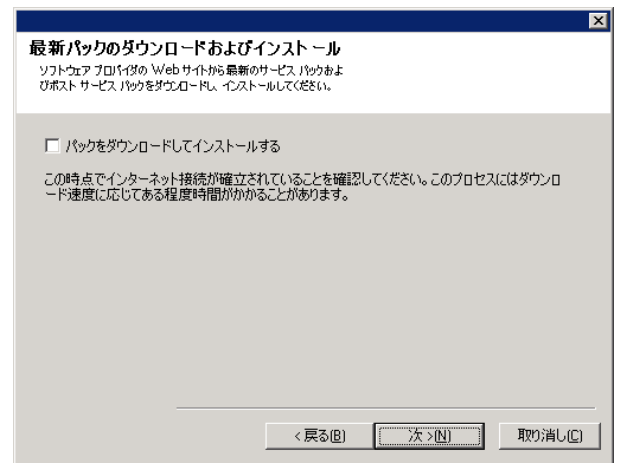
11. [パックをダウンロードしてインストールする] を選択して、最新のサービス パックおよびポスト パックをソフトウェア プロバイダからダウンロードしてインストールします。

ノート

- 更新をダウンロードするには、インターネット接続が必要です。
- このステップは、最初のインスタンスにインストールする場合に適用されます。
- 更新は、以下のディレクトリにダウンロードされます。
<software installation>/Base/Temp/DownloadedPacks.

これらは、サイレントに開始され、最初のインスタンスに自動的にインストールされます。

[次] をクリックして続行します。



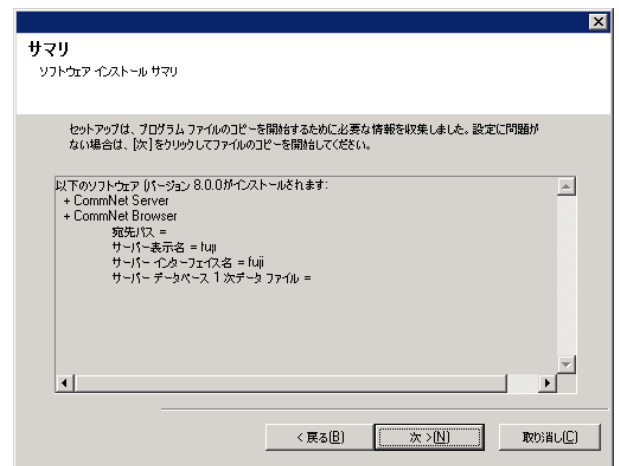
インストール オプションのサマリの確認

12. 選択されたコンポーネントのサマリを確認します。

[次] をクリックして続行します。

ノート

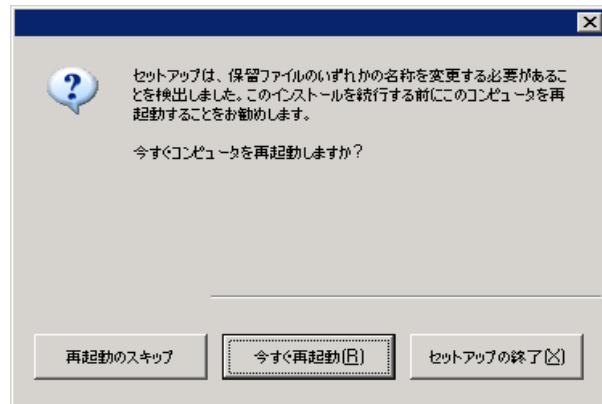
- 右に表示されるサマリは、インストールまたはアップグレードするために選択されたコンポーネントによって異なる場合があります。



13. システムの再起動で、次のいずれかのアクションを選択するよう求

められる場合があります。

- **【ログオフ】** - このオプションは、インストールプログラムでユーザーに必要なセキュリティを割り当てる必要がある場合に表示されます。このログオフオプションが表示された場合は、この時点でログオフしてからコンピュータにログインします。ログイン後にインストールプログラムが自動的に続行されます。
- **【再起動】** - このオプションは、使用する必要があり、置換が必要なファイルをインストールプログラムが検出すると表示されます。[再起動のスキップ] オプションなしで [再起動] オプションが表示された場合は、この時点でコンピュータを再起動します。再起動後にインストールプログラムが自動的に続行されます。
- **【再起動のスキップ】** - このオプションは、他のアプリケーションに属しており、置換が必要なファイルをインストールプログラムが検出すると表示されます。これらのファイルは CommNet サーバーのインストールには重要でないため、再起動をスキップしてインストールを続行したり、コンピュータを後に再起動したりできます。
- これで、インストールプログラムによって、コンピュータへのソフトウェアのコピーが開始されます。このステップは完了まで数分かかる場合があります。

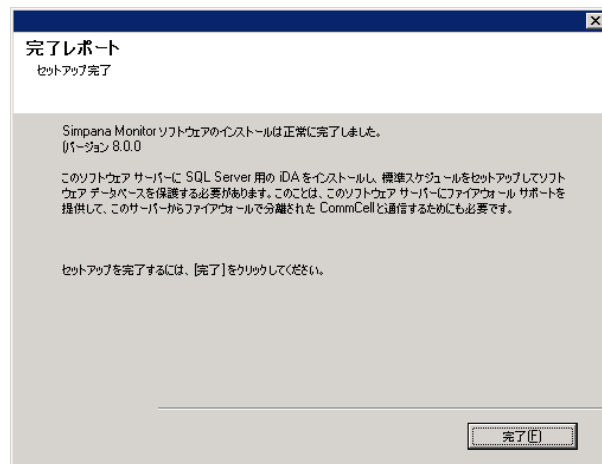


セットアップ完了

14. セットアッププログラムによって、正常にインストールまたはアップグレードされたソフトウェアコンポーネントが表示されます。[完了] をクリックして、インストールプログラムを閉じます。

ノート

- 右に表示される画面は、インストールまたはアップグレードするために選択されたコンポーネントによって異なる場合があります。



インストール後の考慮事項

- このソフトウェアのリリース後に発表された、リリース後更新やサービス パックをインストールします。

CommNet エージェントのインストール - クラスタ環境 - 仮想サーバー

ソフトウェアのインストールに関するそれぞれの節に移動するには、以下のリンクをクリックします。

- [インストール要件](#)
 - [インストール チェックリスト](#)
 - [開始する前に](#)
 - [インストール手順](#)
 - [はじめに](#)
 - [インストールするコンポーネントの選択](#)
 - [インストール オプションのサマリの確認](#)
 - [残りのクラスタ ノードのインストール](#)
 - [セットアップ完了](#)
 - [インストール後の考慮事項](#)
-

インストール要件

- ソフトウェアがインストールされている間は、いずれのジョブも実行またはスケジュールされていないことを確認してください。ジョブがスケジュールされている場合は、別の機会にソフトウェアをインストールするか、または CommCell Console の [CommServe プロパティ] ダイアログ ボックスの [アクティビティ制御] タブを使用して CommCell のすべてのジョブを無効にします。
 - CommServe コンピュータに最新のサービス パックがインストールされていることを確認してください。
 - 適切なソフトウェア インストール ディスクを持っている必要があります。
 - コンピュータが、[システム要件 - CommNet エージェント](#)で指定されている CommNet エージェントの最小要件を満たしていることを確認します。
 - ディスク アレイなどのハードウェア デバイスが構成され、すべてのドライブに接続されていることを確認します。
 - クラスタ上のソフトウェアのインストールまたはアップグレードは、物理ノードではサポートされていません。
-

インストール チェックリスト

ソフトウェアをインストールする前に、次の情報を収集します。情報を記録するために提供された領域を使用し、この情報を障害復旧バイндаで保持します。

1. ドメイン管理者アカウントのユーザー名とパスワード情報
-

詳細については、「[残りのクラスタ ノードのインストール](#)」を参照してください。

開始する前に

- すべてのアプリケーションを閉じ、ウイルス対策、スクリーン セーバー、システム ユーティリティなどの自動的に実行されるすべてのプログラムを無効にします。ウイルス対策ソフトウェアなどの一部のプログラムは、サービスとして実行される場合があります。開始する前にこのようなサービスを停止および無効にします。インストール後にこれらのサービスを再び有効化することができます。
-

インストール手順

はじめに

1. ローカル管理者、またはコンピュータのローカル Administrators グループのメンバとしてコンピュータにログオンします。クラスタ化されたコンピュータの場合は、そのクラスタ内のすべてのノードに対する管理権限を持つドメイン ユーザーとしてログオンします。

2. 適切なソフトウェア インストール ディスクをドライブに挿入します。数秒後に、インストール メニューが表示されます。

インストール メニューが表示されない場合:

- Windows タスク バーの [スタート] ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
 - インストール ディスク ドライブにブラウズし、setup.exe を選択し、[開く] をクリックして、[OK] をクリックします。
-

3. 目的の言語を選択し、[次] をクリックして続行します。

4. ソフトウェアをインストールするオプションを選択します。

5. ソフトウェアをコンピュータにインストールするオプションを選択します。

ノート

- 画面に表示されるオプションは、ソフトウェアがインストールされるコンピュータによって異なります。
-

6. 他のアプリケーションが実行されていない場合は、ようこそ画面で [次] をクリックして続行します。

7. ウィルス検知ソフトウェアの警告を読みます。

ウィルス検知が無効になっている場合は、[OK] をクリックして続行します。

8. ライセンス契約を読んで同意します。

[ライセンス契約の条項に同意する] を選択して、[次] をクリックして "続行" します。

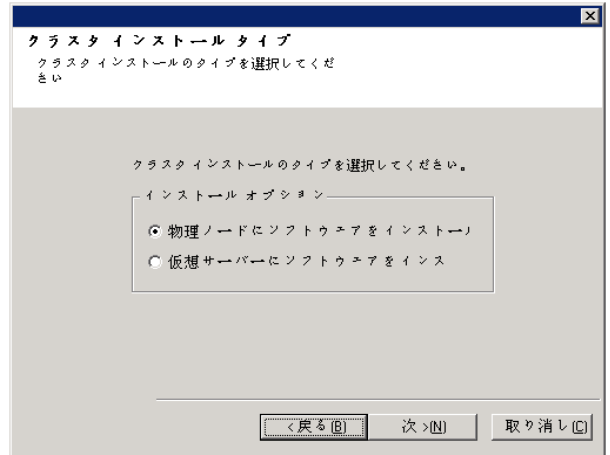
インストールするコンポーネントの選択

9. 仮想サーバーのインストールを選択します。

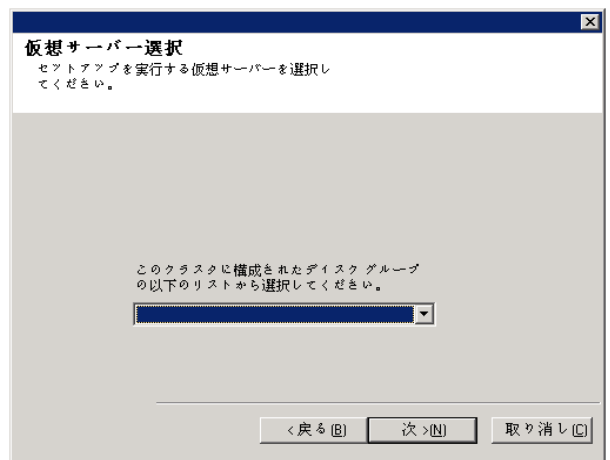
クラスタ上でソフトウェアをインストールまたはアップグレードするには、[仮想サーバー上での Simpana® Monitor のインストール] を選択し、[次] をクリックして続行します。

ノート

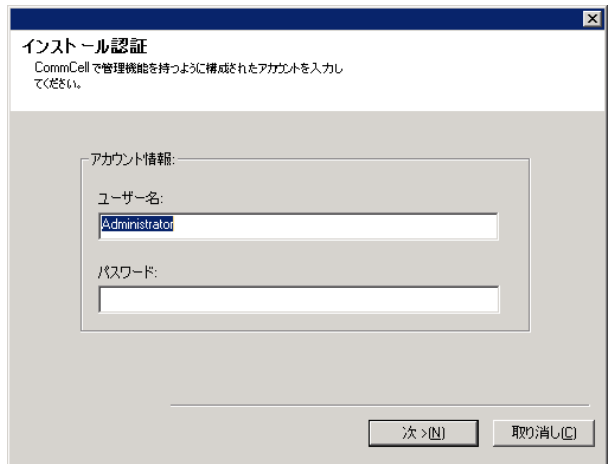
- クラスタ上のソフトウェアのインストールまたはアップグレードは、物理ノードではサポートされていません。



10. ソフトウェアをインストールするディスク グループを選択します。
[次] をクリックして続行します。



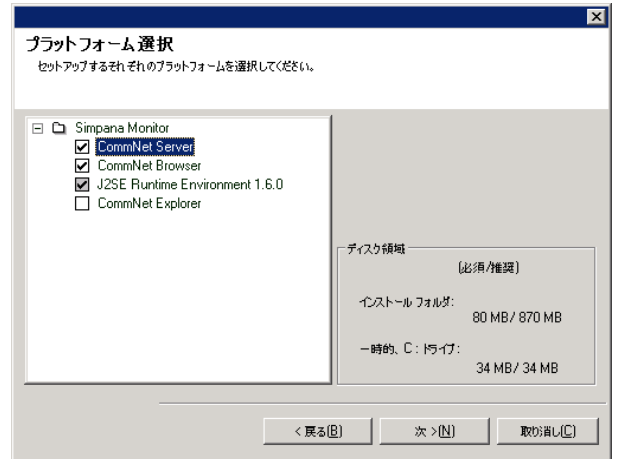
11. 外部ドメイン ユーザー アカウントまたは CommCell ユーザー アカウントの [ユーザー名] および [パスワード] 情報を入力します。これにより、CommCell へのエージェントのインストールが認証されます。
[次] をクリックして続行します。



12. インストールするプラットフォームを選択します。
[次] をクリックして続行します。

ノート

- スケジュールされたレポートを使用する場合は、CommNet ブラウザが CommNet サーバーにインストールされている必要があります。



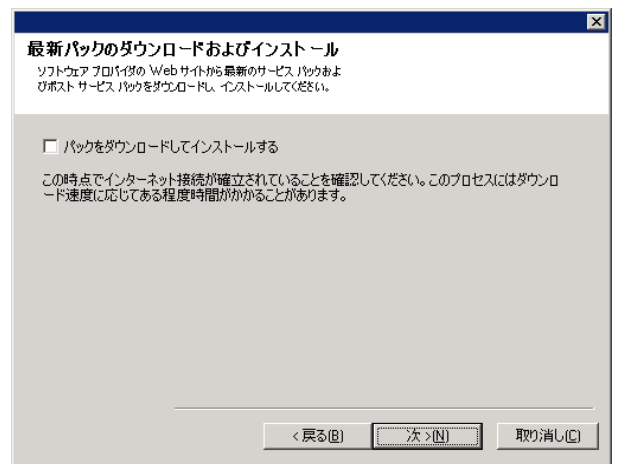
13. [パックをダウンロードしてインストールする] を選択して、最新のサービスパックおよびポストパックをソフトウェアプロバイダからダウンロードしてインストールします。

ノート

- 更新をダウンロードするには、インターネット接続が必要です。
- このステップは、最初のインスタンスにインストールする場合に適用されます。
- 更新は、以下のディレクトリにダウンロードされます。
<software installation>/Base/Temp/DownloadedPacks.

これらは、サイレントに開始され、最初のインスタンスに自動的にインストールされます。

[次] をクリックして続行します。



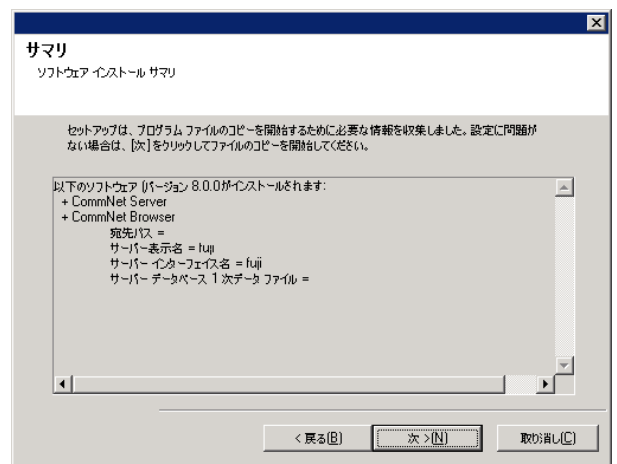
インストール オプションのサマリの確認

14. 選択されたコンポーネントのサマリを確認します。

[次] をクリックして続行します。

ノート

- 右に表示されるサマリは、インストールまたはアップグレードするために選択されたコンポーネントによって異なる場合があります。

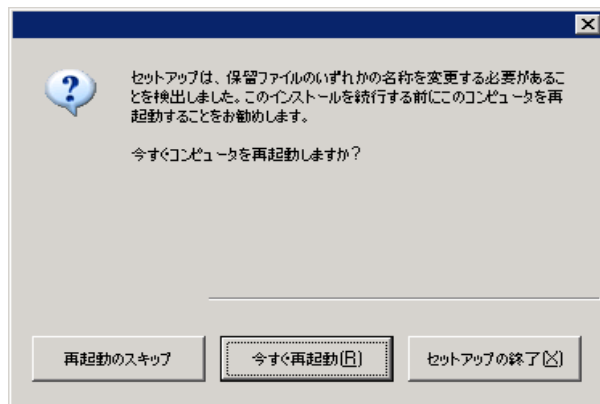


15. システムの再起動で、次のいずれかのアクションを選択するよう求められる場合があります。

- **[ログオフ]** - このオプションは、インストール プログラムでユー

ザーに必要なセキュリティを割り当てる必要がある場合に表示されます。このログオフ オプションが表示された場合は、この時点でログオフしてからコンピュータにログインします。ログイン後にインストール プログラムが自動的に続行されます。

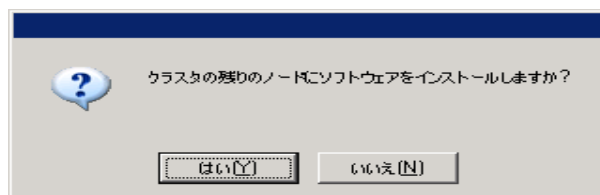
- **[再起動]** - このオプションは、使用する必要があり、置換が必要なファイルをインストール プログラムが検出すると表示されます。[再起動のスキップ] オプションなしで [再起動] オプションが表示された場合は、この時点でコンピュータを再起動します。再起動後にインストール プログラムが自動的に続行されます。
- **[再起動のスキップ]** - このオプションは、他のアプリケーションに属しており、置換が必要なファイルをインストール プログラムが検出すると表示されます。これらのファイルは CommNet サーバーのインストールには重要でないため、再起動をスキップしてインストールを続行したり、コンピュータを後で再起動したりできます。
- これで、インストール プログラムによって、コンピュータへのソフトウェアのコピーが開始されます。このステップは完了まで数分かかる場合があります。



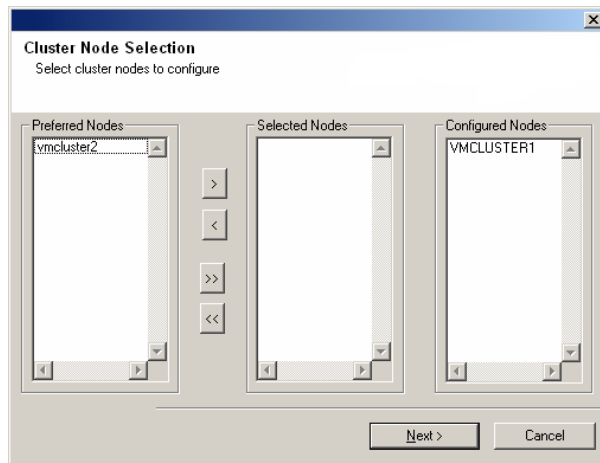
残りのクラスタ ノードのインストール

16. クラスタの残りのノードでソフトウェアをインストールするには、[はい] をクリックします。

このノードでのインストールで完了する場合は、[いいえ] をクリックします。

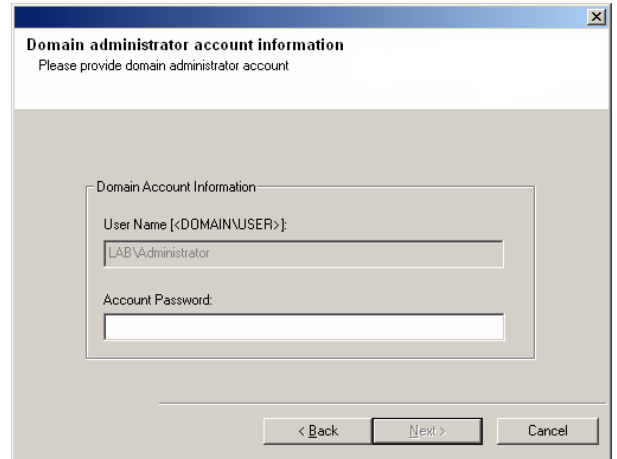


17. [優先ノード] リストからクラスタ ノードを選択し、矢印ボタンをクリックしてそのノードを [選択されたノード] リストに移動します。選択が終了したら、[次] をクリックして続行します。



18. 前の手順で選択したクラスタ ノードをリモート インストールできるように、[ユーザー名] と [パスワード] にドメイン管理者アカウントの情報を入力します。

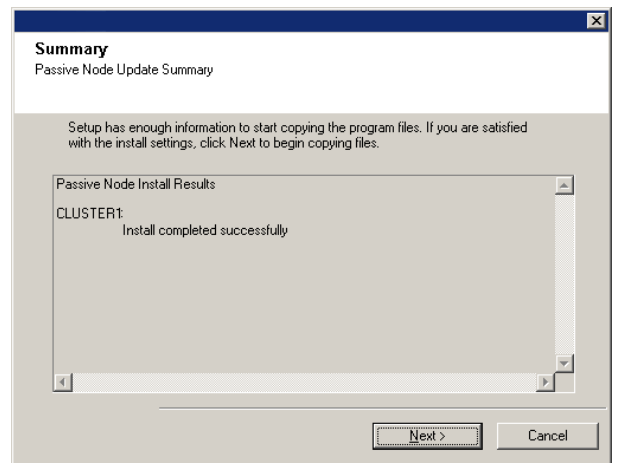
[次] をクリックして続行します。



セットアップ完了

19. パッシブ ノードが正常にインストールまたはアップグレードされたことを確認してください。インストール/アップグレード時にいずれのノードも使用できなかった場合は、「[手動によるパッシブ ノードのインストールまたはアップグレード](#)」を参照してください。

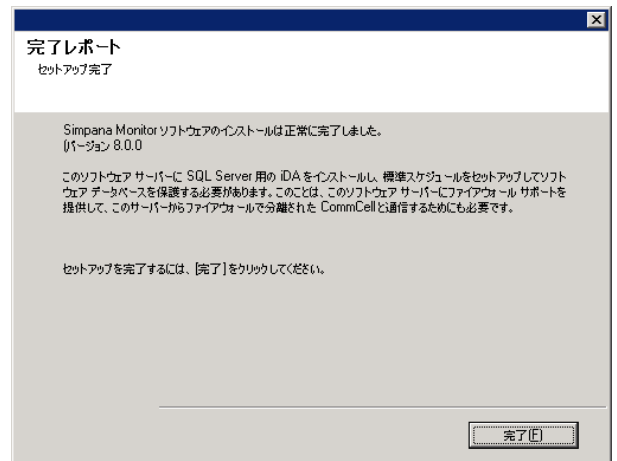
[次] をクリックして続行します。



20. セットアッププログラムによって、正常にインストールまたはアップグレードされたソフトウェア コンポーネントが表示されます。[完了] をクリックして、インストールプログラムを閉じます。

ノート

- 右に表示される画面は、インストールまたはアップグレードするために選択されたコンポーネントによって異なる場合があります。



インストール後の考慮事項

- このソフトウェアのリリース後に発表された、リリース後更新やサービス パックをインストールします。

これ以後の操作

ソフトウェアのインストールが完了すると、CommNet ブラウザを使用して CommNet ドメインを管理できるようになります。サマリとレポートを表示する前に、次の操作を実行する必要があります。

- セルの登録
- [データ保護] ウィンドウと [対象範囲] ウィンドウの構成
- データ収集ポリシーのセットアップ

これ以外にも、CommNet 環境をカスタマイズするための構成オプションと追加機能が数多く用意されています。これらのトピックの概要については、「はじめに - これ以後の操作」を参照してください。機能の完全セットの詳細な説明については、Books Online を参照してください。

